歩いて発見。津の魅力

136 歴史散歩

津市最大の平山城　安濃城跡

津市の中心地から県道津芸濃大山田線を西に向かい、安濃町に入ると安濃川の北に広がる水田の向こうに丘陵が見えてきます。安濃城はその丘陵の標高30～59mの尾根上にありました。

城の大きさは東西約450m、南北約350mで、丘陵頂部の主郭から東に向かって、屋敷地と想定される複数の曲輪(※１)が連なります。

主郭は約50m四方の広さで、現在は阿由多神社の境内となっています。主郭の周囲は土塁(※２)に囲まれ、南西の隅には櫓跡とされる平場があります。また、南東には土塁を削って作られた神社の参道があり、その少し北側には主郭への当時の入口が現存します。土塁の大きさと、深く掘られた入口の外側の大規模な堀は、安濃城の堅牢さを物語っています。

江戸時代に著された「勢陽雑記」などによると、この安濃城の城主は、室町時代から戦国時代にかけて美里町長野に本拠を置いていた国人領主・長野氏の一族である細野藤敦とされています。藤敦は、元は美里町にある細野城に居を構え、後に安濃城に移ったとされています。

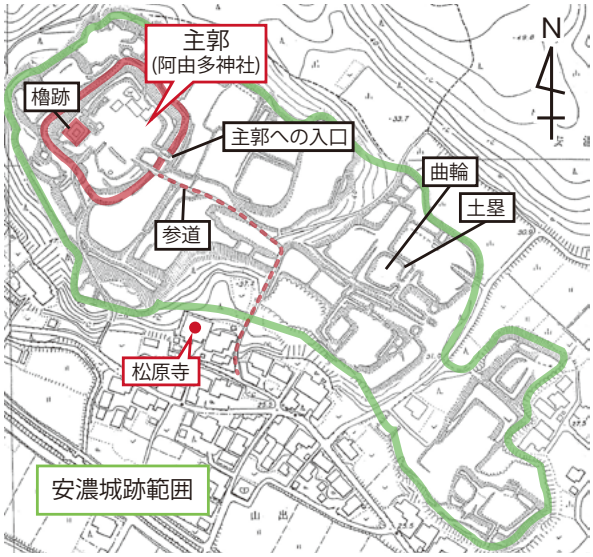
永禄年間(1558～1570)に、織田信長の長野氏攻めの際、安濃城は落城せず、長野氏当主の藤具を追放した後、織田信長の弟信包が長野氏の養子に入ることで和睦します。

しかし、その後も藤敦は信包に抵抗を続け、天正年間(1573～1592)に、安濃城は信包により再び攻められ落城したと伝えられています。藤敦は落城後も秀吉などに仕えたとされ、京都妙心寺玉龍院にある子孫によって建てられた墓石には「慶長８(1603)年２月26日」の銘があり、安濃城の落城後も細野一族は滅びることなく、生き延びていたことが分かります。

安濃城跡の主郭へは、麓にある松原寺の東側の参道から頂上付近にある阿由多神社を目指すのが最も分かりやすい道です。麓から各曲輪を抜けながら、細野一族の興亡を懸けた戦いに思いをはせてみてはいかがでしょうか。

※１　曲輪･･･城郭内部の土塁や堀などに囲まれた区画
※２　土塁･･･外敵からの侵入を防ぐために土を堤防状に積み上げたもの

南から見た安濃城跡



安濃城跡(作図：伊賀中世城館調査会)